# かたひがし

昭和49年12月2日
第145号
発行
新潟県西蒲原郡潟東村
印刷
北洋印刷株式会社


<村の人口>

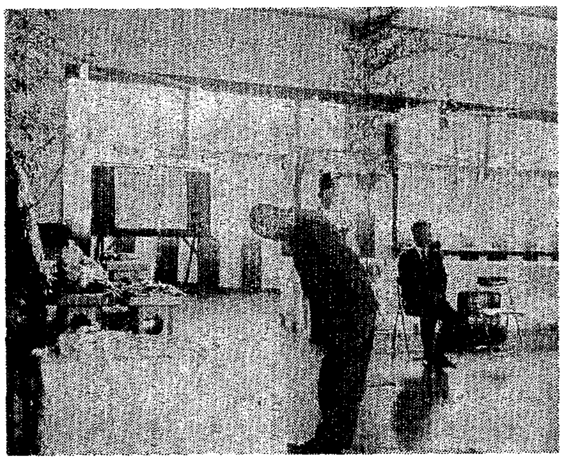
| | |
|---|---|
| 総人口 | 6,461人 |
| 男 | 3,163人 |
| 女 | 3,298人 |
| 世帯数 | 1,206 |

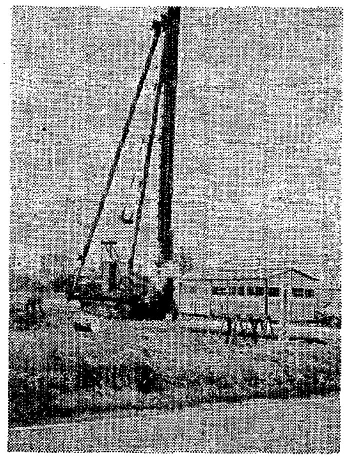
昭和49年10月31日現在

# 自動電話局工事着手
## 農業会館で起工式

十一月十三日山崎新潟電気通信部長、渡辺巻電報電話局長、小泉村長、村会議員、各部落代表らが雪のため農業会館に移した会場に集り潟東村電話交換局起工式を行った。のりと奉上のあと、鍬入式、玉ぐし奉典の儀式を行い工事の安全を祈願した。

潟東村は今まで巻局、白根局、巻局潟東電話交換局（半自動）の三つの局があり不便をかこってきた、村民から村内一局の強い声があり、新潟電気通信部では既設加入者の説得を続け、このほど番屋地内の一千七十八平方メートルの敷地内に、来年五月末までに鉄骨平屋建て二百三十平方メートルの局舎を建て、自動交換機を取り付け再来年春には、村民念願の一村一局（加入者約一千口）で開局することにしている。


▷玉ぐし奉典をし工事の安全を祈る小泉村長


◁工事が始まった現場

## 村の木に〝キンモクセイ〟決まる

十一月二十日村議会全員協議会で応募のあった五品種について選定を行った。

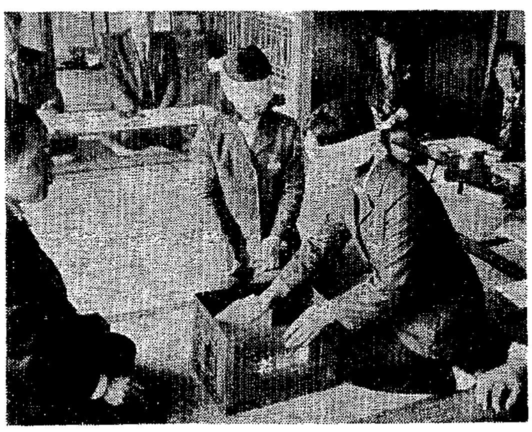
「応募数も多く香りがよく、文化の香りただよう潟東村の木にふさわしい」ということでキンモクセイが村の木に決まった。その後キンモクセイに応募のあった一〇四枚のハガキの中から賞金が送られる十枚のハガキを役場職員が目かくしし選んだ。

合併二十周年記念行事として、緑化運動の一環として村の木に決まった。キンモクセイの苗木が、各家庭にまた公共団体へ送られることになっている。

近い将来には、潟東村中からキンモクセイの香りがただよい、文化の香りと共に潟東村の名物になりそうである。

| 応募総数 | 三四九 |
|---|---|
| キンモクセイ | 一〇四 |
| クロマツ | 八〇 |
| ウメ | 七八 |
| ヤエザクラ | 六六 |
| エンジュ | 二一 |

当選者
福島　健市　島方
小林　正樹　島方
佐藤仁一郎　島方
小林　秋男　島方
倉元　元一　島方
本間　勉　島方


揖斐　隆　水沢新田
桑原福二　井随
長沼重造　茨島
谷川国基　五之上

## 村勢要覧 潟東発刊

〝「健康で文化の香りただよう潟東村」建設をモットーに努力を続けてきた、後進村と言われ乍らも、村民一丸となって新村建設に歯をくいしばって頑張ってきた。その成果はあったのか、そのまとめとすると共に、これを土台として、更に飛躍の村づくりに貢献できたら〟と、村長も発刊に寄せてつづっている。

本編は、発展の可能性を秘めた潟東の姿を撮った表紙に、行政・福祉から道路・通信と、写真で綴った二十六ページのものである。また、行政・財政から村民の暮しまでわかる三十二頁もの資料編があり、発展の潟東村が一目でわかるすばらしいものである。合併二十年を迎える時にまとめることができてうれしいと、担当の住民課は言っている。

## 善意の寄付続く

水沢新田の藤田昭一氏の厳父藤田栄次郎様が、この春四月七日に亡くなられ、各方面から寄せられた香典の一部を潟東村の恵まれない方々のためにと「三万円」もの大金を御寄付頂きました。誠に有難う御座いました。

潟東村社会福祉協議会
会長　小泉　充

## 農業専攻科生の募集

農業者としての自覚と誇りをもち、広い視野に立って社会発展に正しく対応した高度な技術と経営能力を身につけて地域の実態に即応した農業の近代化をはかり農家経済の発展と地域社会の発展に寄与できる人材を養成するために毎年農業教育センター専攻科生を募集している。

募集人員　四〇人
修業年限　研修課程一年
専攻部門　稲作、園芸、酪農、養豚、養鶏

くわしいことは役場経済土木課へおたずねください。

## 選挙人名簿登録者数のお知らせ

潟東村選挙管理委員会

九月一日基準日の選挙人名簿登録（定時）は、九月十日調整を終りました。その結果を次のとおり投票区別にお知らせいたします。

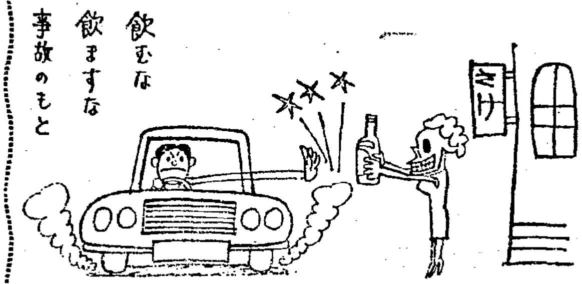
九月十日現在 選挙人名簿登録者数

| 投票区 | 区分 | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 第一 | 番屋 茨島 称名 | 三一九人 | 三三八人 | 六五七人 |
| 第二 | 上大原 下大原 | 一五二 | 一六七 | 三一九 |
| 第三 | 今井 国見 大曽根甲 南 | 三〇五 | 三一七 | 六二二 |
| 第四 | 横戸甲、乙 水沢新田 遠藤 卯八郎受 | 六九五 | 七五二 | 一、四四七 |
| 第五 | 井随 | 二四一 | 二五七 | 四九八 |
| 第六 | 熊谷 山口新田 | 二一四 | 二四六 | 四六〇 |
| 第七 | 五之上 | 二二五 | 二三五 | 四六〇 |
| 合計 | | 二、一五一 | 二、三二二 | 四、四七三 |

## 飲酒運転追放100日運動実施中

昭和49年11月11日～昭和50年2月18日

飲むな
飲ますな
事故のもと




※期間が変更になりました

運動スローガン
「酒を飲んだら，運転しない」
「運転者には，酒をすすめない」
「運転する時は，酒を飲まない」

飲酒運転全国一が新潟県。この新潟県の飲酒運転の最重点市町村に潟東村が指定されている。この不名誉を村民全員でなくしよう。

## 年末・年始の防犯について

潟東村防犯組合

年末、年始は、現金めあての犯罪が多く発生いたします。次のことに留意して下さい。

◎確実な戸締り
外出や寝るときには、必ず「鍵」をかける。

◎お金のしまい方
最近のドロボーはほとんど現金を狙います。大金や不急の金は、銀行、局や組合などへ、通帳と印鑑は別々に保管して下さい。

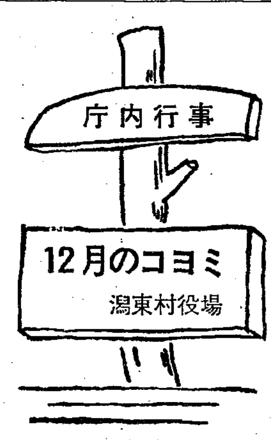
◎小さな暴力でも一一〇番
特に、年末年始には酔っぱらい、チンピラ、暴力団など、とくに言いがかりをつけ、暴力を振います。できるだけ相手にならず、すぐ一一〇番へ。

◎自動車盗、車上ねらいの防ぎ方
自動車はできるだけ車庫に入れ、車庫にも車にも「鍵」をかける。

## 停電のお知らせ

東北電力白根営業所では次のとおり停電いたしますので、協力下さい。

| 期日 | 部落 | 時間 |
|---|---|---|
| 12月3日（火） | 井随 | 8時30分～13時00分 |




3　乳児健康相談（農業会館）
6　母親学級（農業会館）
9　清掃デー（危険物収集）
11　百ジフ予防接種（農業会館）
11　糖尿病指導会（農業会館）
12　成人病健康相談（大原農協）
13　成人病健康相談（四ッ合農協）
26　ポリオ生ワク投与（農業会館）
15日～21日　※家鼠の一斉駆除週間

## 飲酒運転追放しよう

「飲酒運転追放決意の旗」が二十七日十時頃巻地区安全協会の代表の手で署名のため村長室を訪れた。

○日運動で交通安全意識を高めるため各市町村長、警察署長を訪問して「決意の旗」に署名してもらおうというものである。

「潟東村は飲酒運転最重点地区になり不名誉をなくするため、村も積極的に取組みたい」と村長は語り署名をいただいた。

「決意の旗」は県下で九本その一つが潟東村を訪れたもので、最後に九本の旗が県庁に集り知事の署名もいただけることになっている。

## 農業講演会開催

収獲の秋も終り、寒風の吹きつけるこの頃です。農家の皆様方におかれましてはいそがしい毎日をお過しのことと思います。

潟東村農業振興協議会では、各種共進会表彰式後、左記により農業講演会を開催しますので多数参集下さるよう御案内申し上げます

記

期日　十二月六日

会場　午前十時三十分
老人憩の家天仙閣

講師　新潟大学農学部
熊代幸雄教授

演題　生産組織と農村整備

## スライドで増額された年金が四カ月繰上げてあなたのおてもとに

国民年金では、これまでおよそ五年に一度、財政再計算といって、その時々の物価や生活水準にあわせて年金額や保険料を見直す方法がとられてきました。

しかし最近のように社会や経済のうごきが激しいそれだけでは年金のねうちを一定に保つことが難しくなりました。そこで昨年の法律改正により毎年の物価が五パーセント以上うごいた場合、年金額もその率に応じて翌年度の一月から調整するいわゆる**スライド制**が採用されました。

昭和四十八年度の物価（全国消費者物価指数）は総理府の調査で四十七年度にくらべて十六・一パーセントの上昇に加え昨年来からの異状な経済情勢もあって、昭和四十九年度に限り四カ月繰上げて、この九月分から十六・一パーセント引上げ実施されましたが受給者のみなさんに増額された年金が実際にお手元に届くのは、老令年金が十一月また障害、母子、遺児などの年金は、十二月の支払期からです。

なお、くわしいことは役場住民課におたずね下さい

| 項目 | | スライド前 | スライド後 |
|---|---|---|---|
| 拠出年金 | 10年年金 | 150,000円（月12,500円） | 174,150円（月14,512円） |
| | 5年年金 | 96,000円（月8,000円） | 111,456円（月9,288円） |
| | 通算老令年金 | 800×保険料納付月数＋（免除月数×½） | 同左×1,161 |
| | 障害年金 | 1級　300,000円（月25,000円）<br>2級　240,000円（月20,000円） | 1級　348,3000円（月29,025）<br>2級　278,646円（月23,220円） |
| | 母子年金<br>準母子年金<br>遺児年金 | 240,000円（月20,000円）<br>（加算対象の子のうち1人については2人目から9,600円、3人目から4,800円を加算する。） | 278,640円（月23,220円）<br>（加算対象の子については同左注） |

福祉年金は毎年引上げが行なわれるのでスライドはありません。

## 冬をのりきる食事と栄養

脂肪は油をつかった料理でとり、肉のあぶら身は動脈硬化や高血圧を促進させるともいわれていますので、なるべくひかえめにしラードやヘッドなどの動物性の油は使わないほうがよいのです。なじみ深いケンチン汁、サツマ汁、フライ野菜いためなど、それにマトンや豚肉などの油いためなど。

**○脂肪の働きをたかめるたん白質……**

油ものの料理のとき、たん白質の食品をとることを忘れないようにしましょう。それは、脂肪のはたらきを倍加するからです。もっとも、たん白質食品は、三度三度の食事に欠かしてはならない食べものです。

**○ビタミンAとCを……**

からだの抵抗力をつけ、カゼを防ぐ栄養にビタミンAとCがあります。レバー、チーズ、牛乳、卵、にんじん、ほうれん草、大根葉、小松菜、しゅんぎく、ニラそれに冬の果物の王様みかんを……。

## 冬の健康をつくるチエ

**◎薄着でいこう……**

薄着がよいということの理由は、

①寒冷の刺激がある

②活動が活発（動きやすい）

③以上二つのために食欲が増す。

というようなことで健康保持、増進に役だつからです。寒さに向うころから、わたしたちの体内の産熱能力は徐々に高まります。ところが、厚着をしているとその機能が活発に働きません。産熱力が旺盛であれば寒さに耐える力も大きくなります。しかし、薄着は健康によいからといって、急にやるのはマイナス。とくに中年すぎてからは、自分の習慣やペースを十分考慮することが大切。秋のなかば過ぎ、涼しさが増すころからすこしずつというのがじょうずなやり方。

**◎運動を……**

冬はどうしてもちぢこまりがちです。そういう姿勢は、ますます血液のめぐりを悪くしてしまうので、からだをのばすことが肝心。時間のあきを見つけては運動をするように心がけたいもの。運動のもっとも手っとり早いのが体操で、要するに曲げる、のばす、まわすの三つの原則によって成っているもの。それを自由に折りこんで、自分のすきなようにやってみてください。ともかく、冬はつとめて〝からだを動かす〟ことが大切です。

**○脂肪をもっと……**

失われた体温―つまりカロリーを補うもっとも重要な栄養は脂肪です。糖質や脂肪は働く力の源ですが、脂肪は糖質の二倍のカロリーをもっています。そこでまず、脂肪をより多くとるようにすることが、健康な冬をつくる条件の第一です。

**○油は植物油を……**

からだをつくる**たん白質**働く力の源となる**脂肪**や**糖質**、からだの調子を整える**ビタミン**や**ミネラル**。これらの栄養がまんべんなくとられてはじめて健康体が維持されます。寒い季節は、体温の失われる量が多くなり、したがってそれを補給することが、冬の健康を維持する食事と栄養の第一課題ということになります。

## 青少年健全育成

## 家庭のなかで、地域のなかで〝子どもたちを見つめ直そう〟

去る十一月十四日夕方、称名部落の中学生が、シンナー遊びで死亡するといういたましい事故が起きた。

誰れもがこの中学生の死を信ずることができなかった。家族の方々には勿論のこと、学校の先生も、近所の方々も、大ぜいの友だちも。

しかし彼の死は事実であり、若くたくましい彼の魂は永遠にこの世から消え去ったのである。

学校では「何故彼が死なければならなかったのか。

何故彼があの遊びを選んだのか。」未だにわからないと云っておられる。それほどに彼は学校での平素の行動や、家庭での生活は明るくすこやかで、誰れからも信頼されていた中学生であったという。

それだけに家族の悲しみもより深かく、その心情は察して余りあるものでありまた関係機関にとって大きなショックであり、村の青少年育成、教育の将来に大きな警告でもありました。

それでこの事故を機に、子どもを持つ親として、また子どもたちをとりまく村民として、真剣に子どもたちの姿を見つめ直して欲しいのです。

**○親として自分の子どもがいま何をしているかを知っているか。**

**○「自分の子どもに限って」という考え方はないのか。**

**○村中で村の子どもたちを常に見守ってくれているか。**

**○家庭での親と子の心のつながりはどうなのか。**

**○親は目先の仕事に追われて、大切な宝（子ども）をほうりっぱなしにしていないだろうか。**

等々、お互に胸に手を当て考え直してみるにまたとない機会だと存じます。夜子どもが親の眼をぬすんで遊びに出る。それを親は全く知らないとか。子どもの喫煙を親が黙認していたり。金さえ与えておれば、それで親の責任は果されているといった甘い考え方、大きな誤りだと思います。

親と子で、家族みんなで地域のつながりのなかで、この問題を考え、話し合い、これからさき、大いなる発展が約束されている潟東村の、次代の担い手である青少年の健全育成を、村ぐるみで取り組んでいただきたいのです。

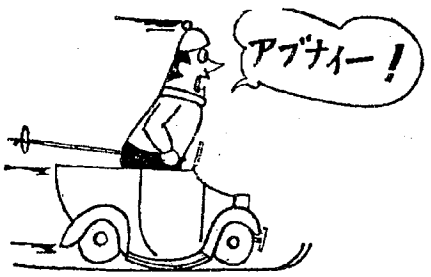
潟東村、潟東村公民館
潟東村社会教育問題委員会
潟東村内小・中学校
潟東村PTA連絡協議会
潟東村青少年対策協議会

## 冬の交通事故防止運動

昭和49年12月11日～昭和50年1月10日

※「スリップ事故の防止」

「冬期間スピード1割ダウン」

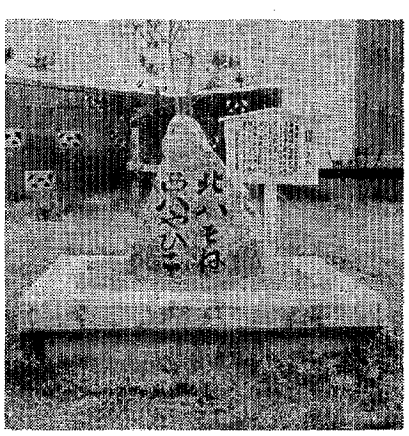



※今回樋口記念美術館ご案内は休みます。

## 小さな話題　「道しるべ」

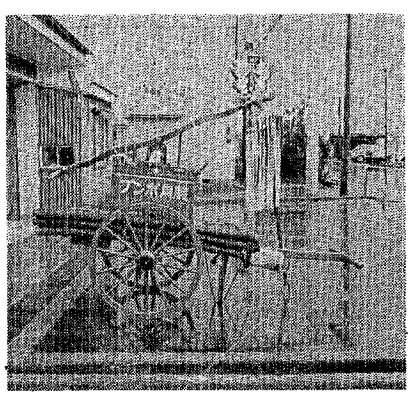
初雪を見た十一月も過ぎ師走を迎え、当美術館も三才の年を迎えようとしている。今回は美術館を出て当館の前にある〝道しるべ〟を紹介いたします。

参観者の多くが足を止めていくこの道しるべは、潟東村番屋地内の道路脇から道路工事の際、見つかり掘出したものです。



いつの時代に誰の手によって立てられたかわかりませんが、この小さな道しるべの前に三度笠をかむった多くの旅人が立ちどまり西へ東へと道を急いだことでしょう。

ただ〝北ハそね西ハやひこ〟としるしてある道しるべあなたも尋ねてみて下さい。



## 腕用ポンプ復元

積載車が村内全分団に配置され消防の近代化にともない、第四分団（三万）の車庫のすみに眠っていた。戦前の花形だった腕用ポンプが昨年秋に公民館へ保存して欲しいと持ち込まれたものである。今年の夏から消防署員の手によって、すべてさびを落とし磨き上げられ、このたびすっかりでき上った。近日、潟東村民族資料館へ移され保存されることになっている。

**うぶごえ**（10月中届出）

| なまえ | 生年月日 | 保護者 | 住所 |
|---|---|---|---|
| 渡世こずえ | 49. 9.24 | 恵 | 島方 |
| 小林 和豊 | 49. 9.25 | 八千雄 | 今井 |
| 武田 和志 | 49. 9.26 | 佐和治 | 遠藤 |
| 幡本 雅信 | 49.10. 5 | 富雄 | 井随 |
| 高嶋三枝子 | 49.10. 7 | 紀久雄 | 五之上 |
| 青柳小津枝 | 49.10. 9 | 広芳 | 下大原 |
| 白倉 綾子 | 49.10.14 | 正一 | 上大原 |
| 設楽 充 | 49.10.18 | 豊 | 大曽根甲 |

**おくやみ**（10月中届出）

| なまえ | なくなられた日 | 年令 | 住所 |
|---|---|---|---|
| 赤塚 熊市 | 49.10. 7 | 70 | 井随 |
| 中沢 一郎 | 49.10. 7 | 70 | 水沢新田 |
| 田原喜三郎 | 49.10. 8 | 63 | 番屋 |
| 揖斐美代一郎 | 49.10.12 | 69 | 茨島 |
| 佐藤 トメ | 49.10.15 | 51 | 水沢新田 |
| 田中 正平 | 49.10.22 | 86 | 水沢新田 |